

## 2026年 賀詞交歓会

### 開会挨拶 会長 上原 正弘

皆様、あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。本日は例年より多く、300名弱の皆様にお越しいただきました。森光医政局長をはじめとした厚生労働省の皆様、伊吹製造産業局長をはじめとした経済産業省の皆様、加藤会長をはじめとした特別民間法人高圧ガス保安協会の皆様、そして日本医療ガス学会の皆様、一般財団法人医療関連サービス振興会の皆様、公益財団法人医療機器センターの皆様、さらに医療団体の方々にもお越しいただいております。また報道各社の皆様にもおいでいただき、誠にありがとうございます。

新しい年の幕開けです。3年前から私の挨拶にお付き合いをいただいている方はご存じだと思いますが、3年前は1を取る、2年目は2を取る、去年は3を取るとして、今年は4の年ですが残念なことにネタがありません。4といえば、ロシアのウクライナへの侵略戦争も4年目を前にやっとおしまいと締めくくるはずでしたが、これが叶わず残念至極です。さらには台湾近海での緊張やアメリカのベネズエラへの侵攻もあり、もはやいい加減にして欲しいとの思いです。

私たちは、「モノづくりを支え 命を守る、インフラがある。」のとおり、我が国の産業と国民の生活を守るために必要とされるガスを、必要とされる場所に必要とする時に、安全に安定的に供給し続ける使命を負っております。JIMGAは会員各社の皆様がこの使命を全うするため、事故の無い安全な高圧ガスの世界の希求、「もの申す団体」として発言力の強化、カーボンニュートラルな社会への挑戦、という3つの活動方針を掲げ、今年も精力的に活動してまいります。

まずは事故の無い安全な高圧ガスの世界について、JIMGAでは保安講習の実施、自主基準の作成、さらにホームページでは高圧ガスの基礎知識や高圧ガスの保安に関する各種動画を掲載し、特に昨年のアセチレンの爆発事故を受けまして、溶解アセチレンの安全な取り扱いについても動画を充実させました。これらの活動を通じて高圧ガスの事故撲滅に向けた活動を推進してまいります。

これらの活動がどのように行われているかについて、これまであまりお知らせする機会がなかったのでお話をさせていただきます。これらの活動は、本部だけでも理事会の下に10の委員会、22の部会があり、さらに分科会やワーキンググループなどに所属するおよそ500名の方々による非専従の手弁当の活動によって支えられています。さらに9個ある地域本部の下にも部会や支部があり、分科会やワーキンググループ、草の根講習会関連など、本当にたくさんの方々の献身的な活動によって支えられているのが実態でございます。改めまして委員、部会員ならびに理事の皆様には深く感謝申し上げる次第です。今後とも引き続き力強い、また丁寧な活動をお願いいたします。

なお、講習会活動の中で、特に法令改正に伴う対応について申し上げますと、JIMGAでは一昨年からは化学物質管理者の専門講習を開催しております。化学物質による労働災害防止のための新たな規制により、いよいよこの4月から高圧ガスの状態の酸素、窒素、アルゴン等、その他にも二酸化炭素、アセチレン等も本規制の管理対象となります。この対策のため、対面講習に加え、ウェブ講習やオンデマンド講習を開催し、会員だけでなくユーザーの方々にも多数受講いただいております。残念なことに、化学物質管理者



の選任の義務化についてこの講習で初めて知ったというガスユーザーさんが少なくないようです。改めて注意喚起をいたしますとともに、今後とも皆様の要望に応じて追加開催をしていきたいと考えております。

また、もの申す団体として、高圧ガスの規制改革実現に向けて関係省庁との折衝を推進、継続してまいります。規制改革案件は種々ございますが、本日ご臨席を賜っております関係省庁、関係団体の皆様のご理解とご協力をいただき、実現してまいりたいと思います。

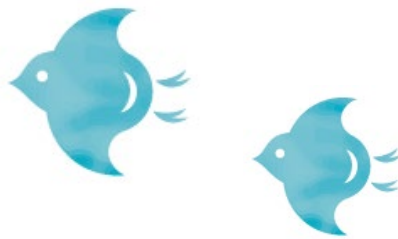
そしてカーボンニュートラルに関しては、まだまだ技術的、経済的な障壁があるようでございますが、引き続き情報の収集等を継続してまいります。

さて、今年の課題として、減収対応について少し触れさせていただきます。今年度この3月までの会計年度では、昨年度の収入実績から約1,000万円の会費収入が減って、減収予算で執行中でございます。今年度は事務局のご尽力もあり、なんとか赤字には至らずに着地できそうな見込みでございますけれども、ご承知のとおり、さらにあと2年間1,000万円ずつ会費収入が下がることとなります。ただ減収となっても、協会の活動は先ほどお話ししたとおり大勢の方々のボランティア活動により成り立っておりますので、たちまち停滞することはありません。ただこれもご承知のとおり、委員会、部会、講習会などの諸活動を行うために、会員の皆様とは、別に本部、各地域本部に所属の40名弱の専従の人間が立ち働いております。経費節減の折、旅費・交通費や会議活動費を削る動きも出ているように聞き及んでおります。世間でもコロナ禍で取り入れたテレワークを差し控えて通常の業務形態に戻す動きが出ているように、やはり対面でなくともコミュニケーションがとれず、非効率的だと考えておりますので、この専従の約40名の役職員が積極的に各所に出向くことが肝要だと考えます。

また色々物価も上がってきておりますし、職員の給与も世間並みには上げる責務もございます。皆が窮屈な思いをしないよう、協会としては収入を増やしていく必要があります。そこで会費以外の収入、例えば魅力的な講習会や図書類の出版・販売など、知恵を絞ってまいります。やはり安定的な会費収入を増やすことが効果的な状況です。垂れ幕に書くのを忘れましたが、ただいま新入会員を絶賛募集中です。是非とも皆様のご協力をお願いして、種々の勧誘活動を行っていただくとともに、引き続きご理解、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

最後に4にまつわる話をさせていただきます。当協会は1930年にできた酸素全国連合会でございます。この発足から数えますと4年後に100周年を迎えます。先達から引き継いだこの大いなるボランティア活動を皆様のお力添えを得ながら、途絶えることなくますます拡大、発展させていく所存です。引き続き皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

今年は令和8年。数字の8は4たす4です。4と4を合わせて今年は幸せな一年になるのではないかと感じております。今年一年が皆様にとって幸せな年であること、皆様のご健勝、ご活躍、また各所の皆様、各関係団体の皆様の益々のご繁栄を祈念申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。



## 来賓ご挨拶 厚生労働省 医政局 局長 森光 敬子 様

一般社団法人日本産業・医療ガス協会の新年賀詞交歓会にあたり、一言、ご挨拶を申し上げます。

貴会におかれましては、日頃より、医療ガスの安全管理などの取り組みを通じて、我が国の保健医療水準の向上に寄与してこられたことに対し、心から敬意を表します。

さて、先の臨時国会では、地域医療構想の見直しや医師偏在是正に向けた総合的な対策、医療 DX の推進等を内容とする改正医療法が成立したところです。

今後、人口構造の変化や医療および介護需要の動向は地域ごとに異なることから、都道府県や市町村が中心となって、地域の実情に応じた医療および介護の提供体制の整備を図っていくこととなります。その際、地域を問わず、在宅で安心して生活できる環境整備の一環として、医療ガスや在宅酸素の安定供給や、これらの設備に係る保守点検業務の重要性が、より一層高まるものと認識しております。

貴会におかれましては、これまで産業・医療ガスに関する各種講習会の開催、在宅医療機器の品質の改善や利用の普及、また在宅酸素供給装置の保守点検事業者に向けた緊急・災害時における手引書の策定など、医療ガス等の安定供給や安全管理の徹底に努めてこられました。

こうした取り組みは、安全・安心な医療サービスを提供する上で不可欠であり、非常時に備えた体制構築に向けても大変重要であることから、今後とも貴会の着実な取り組みを通じて、我が国の保健医療水準の向上に寄与していただくことを願っております。

最後に、貴会の益々のご発展と、本日ご参集の皆様にとって、本年が実り多き一年となることを心から祈念して、新年の挨拶といたします。



## 来賓ご挨拶 経済産業省 製造産業局 局長 伊吹 英明 様

本日は日本産業・医療ガス協会の賀詞交歓会にお招きいただき、誠にありがとうございます。

昨年を振り返りますと、国内は林野の火災、豪雨、台風、地震と引き続き自然災害の非常に多い一年だったと思います。先ほど森光局長からあったように、医療ガスが現場で多くの人の命を救っていただいているということに改めて感謝をいたします。

もう一つ経済産業省から申し上げたいことがあります。去年の大阪・関西万博は事前には相当に心配されましたが、無事に開催し収益もきちんとあげて終えることができました。本日は色々な形で貢献をしていただいている会社さんもいらっしゃいます。実際にカーボンニュートラル関係で色々な技術を提供していただいている会社



さんもたくさんいらっしゃいます。皆様のご助力により成功に導けたことを改めて御礼申し上げます。

経済については先ほどベネズエラの話がありましたが、去年は米中に振り回された 1 年だったと思っております。

国内は全体的には名目 GDP も 600 兆円を超え、賃上げや国内投資も 30 年ぶりの数字だったので、基本的にはデフレからインフレへの大きな形はきっちり見えてきていると思います。人手不足とインフレの問題を克服した上で、次のステージに行かなければいけないわけですが、新しい政権になり、物価高対策は年末に電力やガス、ガソリンの暫定税率で一定の方向性を示したものと思います。インフレ下では投資の応援が経済政策の本丸でございます。今でているのは、強い経済を実現するための 17 の戦略分野です。危機管理投資で強い経済を作ると総理はおっしゃっており、17 の戦略分野を応援していきましょうということです。また分野を問わず大胆な投資に対しては大きな減税措置を行うことを年末に与党で決めていただいております、具体化が進められるはずですので、しっかり検討していきたいと思っております。

産業ガスに関しては、鉄、自動車、半導体の製造プロセス、食品、医療等の分野で、皆様がおられないと物事が成立しません。高圧ガスや化学物質管理、安全は大前提として、しっかりやっていただき、効率化についてはご相談いただきたいと思っております。特に経産省の関係ですと、カーボンニュートラル関係では、水素の製造・供給、CCUS での CO<sub>2</sub> 回収・貯蔵における技術を担っているのが皆様です。先行投資や技術開発をされるケースがあると思っておりますし、17 の分野にはエネルギー GX が入っていますので、引き続き応援していきたいと思っております。

昨年、対外的な課題は二つありました。一つは諸外国の輸出管理であり、重要物資の途絶リスクが出てきております。産業界が主体となってやっていくところが多いのですが、国としても大事なものに関しては、国家備蓄をすとか、代替供給源を開発する時に様々な応援をすとか、ユーザーにきっちり使ってもらうための仕組み作り等をしっかりやっていく必要があります、サプライチェーンの強靱化に力を入れていきたいと思っております。もう一つは通商関係です。去年はトランプ関税に象徴されるようなことが起き、その都度個別の対応を行って来ました。それに加えて、アジア各国が供給能力を非常に上げているので、各地で物の値段が下がり、特にアジア市場で大変だという話があります。国内への流入に対してはアンチダンピング等の手はあるわけですが、それを各国と一緒にやらなければならないので、自由貿易を守っていく仲間を増やしていく活動を引き続きやっていきたいと思っております。今日本は、自由な貿易投資で潤っている面がたくさんあります。それによって経常収支も非常に高い黒字になっているわけですので、経済安全保障と自由な貿易投資を引き続きしっかりやっていきたいと思っております。

今年は令和 8 年で午年ということで、駿馬のごとくとか、力強く駆け抜けるという話になりますが、馬は人間にとってどの時代であってもパートナーともいえます。先ほど申し上げた鉄、自動車、半導体、医療から見ると皆様はとても大事なパートナーですので、今年は皆様が大事にされなければならない年だと思います。4 たす 4 という話もありましたので、ぜひ末広がりの一年になるよう、皆様のビジネスが益々盛んになることを祈念しまして、挨拶に代えさせていただきます。



## 乾杯挨拶 特別民間法人 高圧ガス保安協会 会長 加藤 洋一 様

日頃より皆様におかれましては私どもの業務推進に対して多大なるご支援、ご理解を頂戴しておりますことに、この場をお借りしてお礼を申し上げます。本日は諸先輩方が多数ご臨席でございますので大変恐縮ではございますが、ご指名でもございますので乾杯の音頭を取らせていただきたいと思います。

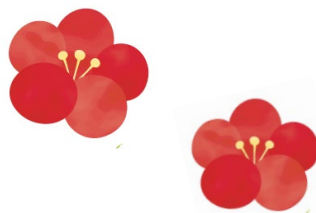
その前に少し歴史の話をさせていただきます。私たちは高圧ガスの保安に従事しておりますが、これが制度として始まったのは、大正11年（1922年）に「圧縮瓦斯及液化瓦斯取締法」が成立した時に遡ります。日本で高圧ガスの利活用が始まったのはいつかと申しますと、それよりさらに15年前の明治40年（1907年）になります。今のアサヒビール、サッポロビールの前身である当時の日本麦酒釀造が液化炭酸ガスの製造に乗り出しており、そこから始まったと言われております。そしてその法律の制定前後の黎明期に高圧ガスの製造をされておられた方々が、当時の会社のお名前でおっしゃると、日本酸素、名古屋炭酸、日本炭酸、大日本アガ瓦斯、液化気体、電気化学などの皆様でございます。多くはJIMGAさんの会員企業ということになるかと思っております。従って高圧ガスの歴史は、まさにJIMGAさんの歴史そのものではないかと受け止めております。

それから少し今は踊り場ではございますけれども、水素社会の形成促進のための法律を作っており、水素の話が出ております。この黎明期に主に生産されていた高圧ガスは6種類だと言われており、酸素、窒素、塩素、溶解アセチレン等の他に水素も当時から複数の会社で製造・生産されております。年初に高市総理が岡倉天心の言葉を引用されて、「歴史の中に未来の秘密がある」とおっしゃったように、JIMGAさんの歩み、会員企業さんの歩みの中に水素社会の未来が透けて見えると考えております。

先ほど会長からもお話がございましたとおり、「モノづくりを支え 命を守るインフラがある。」という方針の中で、諸事力強く歩みを進めておられますJIMGAさんにおかれましては、私どもの委員会に多数ご参加いただきまして心より感謝しております。

一方私たちは、法定業務、検査・検定、技術基準の作成等、言うなれば制度インフラの整備・運用を担っている立場でございます。従いまして、JIMGAさんは高圧ガスの未来に向けて手を携えて共に歩むパートナーであると思っております。

昨年ノーベル賞を受賞された北川先生は「これからは気体の時代」だとおっしゃっています。気体の時代ということはエネルギーで言えば、高圧ガスの時代でありJIMGAさんの時代になるということだと思います。その想いと共に、今年は午年ですので飛躍の年になりますよう、JIMGAさんと会員企業の皆様の益々のご発展、それからご臨席いただきました皆様のご健勝を祈念しまして盃をあげたいと思います。乾杯。



## 中締め挨拶 副会長 鈴木 慶彦

先ほど会長のご挨拶に幸せというお話がありました。とにかく幸せな社会を作るために我々は仕事をするのだということを忘れていきたいと思います。振り返りますと、日本は80年周期でいろいろ変わってきています。明治維新から約80年で戦後になり、それから80年経ったのが去年の2025年です。日本がグーッと成長して、おかしくなり、また新しい形でグーッと成長して、それで苦勞しているのが今までの状態です。ここからまた新しい日本が生まれる時期に来ているのだと思います。これを色々なところで言っているのですけれども、日本人というのは、そういう時に力を発揮してなにくそと新しいものを生み出す力を持っているのではないかと信じております。そのためには何のために仕事をするのかということです。世界中を見ていますと、戦後の民主主義や自由貿易などが崩れそうになっておりますが、自分さえ良ければいいということではなく、皆が幸せになるための仕事をしなければならないと思っております。

高圧ガスの仕事とは、色々な産業や社会生活を支える基盤です。皆を幸せにするためだということを忘れて、これからもJIMGAを発展させていければ、2026年からの新しい80年が始まると確信しております。その最初の年を祝って三本締めで中締めしたいと思います。ご唱和ください。(三本締め)

